

LPIC-1 および LPIC-2 の変更点の概要

1.0 目的

このドキュメントでは、LPIC-1 および LPIC-2 における出題範囲の改訂に伴う変更点の概要を説明します。

2.0 LPIC-1 および LPIC-2 に共通する主な変更点

2.1 出題範囲のバージョン

LPIC-1 および LPIC-2 の新しい出題範囲のバージョンは 3.0 です。LPI では、今後の取り組みとして 5 年サイクルでの主要バージョンのアップグレード (JTA を含む) を見込んでいます。また、Linux の変更点を反映するために、約 2 年半を基準に出題範囲が更新されます。LPIC-1 および LPIC-2 の次のバージョンは 3.5 になり、このような更新が反映されます。

また、主題は最多で年 4 回追加され、試験の出題範囲や詳細が明確にされます。これは出題範囲のバージョンを変更するものではありません。このような更新は教材やコースウェアの著者を補助するものであり、出題範囲の難度や範囲の把握に役立ちます。

2.2 出題範囲の重要度と試験問題との関連

LPIC-1 および LPIC-2 の問題数は 60 問を標準としています。
(「ベータ版」の問題がある場合を除きます。「ベータ版」の問題がある場合は 75 問になります。) また、出題範囲の重要度が 3 の場合、試験ではその出題範囲に関連する問題が 3 題出題されます。

2.3 出題範囲の番号

この改訂版では、1. および 2. で始まる番号は取りやめになりました。1.xxx.y または 2.xxx.y といった番号は、古い出題範囲を示す番号となります。

2.4 重複の整理

以前のバージョンの出題範囲では、いくつかの出題範囲を LPIC-1 と LPIC-2 の両方でカバーしていました。今回の出題範囲の改訂により、内容の重複が削減されています。

特に DNS などの一部の技術はどちらのレベルにおいても重要であり、適切なセクションに分けられています。例えば、LPIC-1 の場合、DNS の範囲は DNS サービスのクライアントとしての使用に限られています。LPIC-2 では、設定とセキュリティ、DNS サーバ管理をカバーしています。

2.5 ソフトウェアのバージョン

出題範囲には、ソフトウェアのバージョンが必要に応じて言及されています。例えば、2.4 Linux カーネルの範囲は、2.6 Linux カーネルの内容に焦点を当てるために削除され、ReiserFS のバージョンは V3 になりました。また、BIND 8.x が削除されています。

3.0 LPIC-1 における主な変更点

3.1 新たな焦点/従来の焦点

主なネットワークサービスと管理業務が LPIC-2 に移動しました。LPIC-1 には、引き続き Linux の使用法と重要なローカルシステム管理 (ntp および syslog など) などが焦点となっています。

このような方針に従い、汎用ハードウェアの内容 (SCSI の種類や PCMCIA など) およびネットワークプロトコルの詳

細 (TCP パケットの内容など) といった、Linux 以外の主題の重要度が低くなっています。
また、インストールの内容は実際の状況により適したものとなり、システムの使用法に関する範囲が増えています。

3.2 主な新規の内容

3.2.1 SQL データ管理

データベースの管理や操作が身近になるにつれ、SQL データの重要性が高まっています。この出題範囲には、データベースの照会と、データの追加、更新および削除が含まれます。

特定のデータベースはカバーしていません。標準 SQL のみです。

3.2.2 アクセシビリティ

アクセシビリティの問題、ソフトウェア技術および支援技術の概要が含まれます。

3.2.3 ローカライゼーションと国際化

この目標では、タイムゾーンの問題、重要な文字セットおよび環境設定に関する知識など、英語以外の言語で中心となる課題をカバーしています。

3.2.4 データの暗号化

セキュリティのエンドユーザツールとして、ssh がより多くカバーされています。また、GPG (GnuPG)の範囲が追加されています。

4.0 LPIC-2における主な変更点

4.1 新たな焦点/従来の焦点

LPIC-2 では、カーネルに関する主題がまとめられています。
ソースからのアプリケーションのインストールなどが LPIC-1 から LPIC-2 に移動しました。

また、このレベルの認定では、セキュリティやトラブルシューティングに関する主題が、より重みづけされています。

4.2 主な新規の内容

4.2.1 トラブルシューティングとセキュリティ

トラブルシューティングとセキュリティに関する出題範囲が大幅に増えています。以前は 1~2 だった重要度が 5 に上がっているものも多くあります。このため、トラブルシューティングが、LPIC-2 の重要な構成要素の 1 つになっています。

4.2.2 udev のデバイス管理

この出題範囲は、最新の Linux システムにおけるデバイスの検出と管理に関する理解度を確認するために追加されています。

4.2.3 LVM

LVM の範囲が大幅に拡張されました。

4.2.4 IMAP/POP

IMAP/POP の範囲が含まれます。対象となるソフトウェアは Courier と Dovecot です。